

もりふれ倶楽部通信 NO. 16

神事、仏事に供える「さかき」について

もりふれ倶楽部 理事長 榎原道夫

猛暑そして日照り、場所によってはゲリラ豪雨。地球温暖化による熱帯型の異常気象が益々手を変え品を変えて我々の生活を脅かし、もりふれ倶楽部の活動意義も益々高くなる中、八月の盂蘭盆がやってきました。

盂蘭盆とは、梵語(古代サンスクリット語)で甚だしい苦しみの意味だそうですが、いろいろな食べ物を祖先の霊に供えて、その苦しみを救うためのお祭りをする行事を指すようです。

ところで古来から我が国の神事・仏事のお祭りには、常緑で肉厚の表面が滑らかで光沢のある葉を有し、切枝の水吸いが良くて比較的日持ちがし、さらに霊が降臨しやすいように先端の芽が尖った木の枝が、神仏の依代(よりしろ)として使用され、また墓前に、霊前に供えられます。この使用される樹を栄え木と呼び、また霊域との境界に植えて境い木と呼んだようです。これが「さかき」の語源だそうです。

従って、オガタマノキやシキミ(モクレン科)、サカキやヒサカキ(ツバキ科)などが「さかき」と呼ばれていたようですが、いつの頃からか神様にはサカキ(榊)、仏様にはシキミ(密)が使用されるのが一般的になりました。

神主が祝詞を奏上し、巫女が神楽を舞う等の神事に、二列(並列)互生に葉をつけ四手などを着ける玉串として都合が良いこと、しかも先端の芽が鳥足の爪の如く曲がって鋭く尖り神霊が乗り移りやすいと考えられてサカキの枝が神事にもってこいの物ということになったのであろうと思います。

一方亡骸を埋葬して弔う場合、亡骸を野犬や様々な肉食性の動物から守るために様々な工夫がなされたと思います。その一つが独特の臭いを持ち、有毒性の植物で埋葬場所を保護することであったと考えられます。葉をこすると抹香くささがありますし、特に種子に多く含まれますが樹全体にアニサチンと言う劇物に指定された、けいれん性の神経毒が含まれているシキミはこれまたもってこいの植物であったと考えられます。

サカキ、シキミがその木の特徴にあった利用がなされ今日に伝承されていると思われませんが、サカキやシキミが手に入りにくいところ、あるいは分布しない関東以北(冷温帯)などで、両者に代わる木としてヒサカキ(緋榊)(神・仏どちらにも使用)が用いられるようになったようです。

* サカキ(ツバキ科サカキ属) 関東以南の暖温帯に分布。神社の鎮守の森等の極相に近い状態の林で茶褐色の樹皮を持つ亜高木として良く見かけます。上記したように、神域と俗域の境界に境木として植えられました。

葉は細長い楕円状で全縁です。枝へのつき方が、二列(並列)互生で先端の冬芽が鋭く尖り鳥の爪上に曲がっているのが大きな特徴です。

* シキミ(ハナノキ)(モクレン科シキミ属) 常緑の小高木、長楕円形の葉はしなやかななめしかわ質、全縁で葉脈は不明瞭、3~4月に葉の付け根に少しねじれたような細長い花弁を持つ淡黄色の特徴のある花を付けます。樹に特有の香気があり、線香や抹香の材料として利用されます。植物全体にアニサチンなどの有毒物質を含み、食すると嘔吐、下痢、痙攣、意識障害をおこし死に至ることもあります。特に実によく含まれますので、決して実を口にするの無いよう特に気をつけましょう。シキミの語源は「悪しき実」から来ていますが、当地ではハナノキと呼んでいます。

* ヒサカキ(シブキ)(ツバキ科ヒサカキ属) 常緑低木。山地や丘などに普通に生えています。葉には波型の低い鋸歯がある点がサカキと異なります。二列互生、芽は細長く鳥の爪形に曲がる場所などはサカキと同じです。語源は 姫サカキ からですが、通常 非サカキ が通用しています。

当地で墓前に供えられるときにはシブキと呼んでいます。

川本流 田舎ツーリズム

(羊の魅力！草刈りからマフラー、健康食品エゴマ体験、川本にもあったダッシュ村)

福代美保

川本町は、松江市からは2時間で、広島市からは1時間少々位置にあり、生活圏は広島の感があります。町の中心には江の川が流れ、ほとんどの集落は支流が作る谷に沿って点在しています。

昔は交通の要所として栄えた町で、近年まで官公庁や公社などの事務所があり、賑やかな所でしたが、多くの事務所が閉鎖され急激に寂れてしまっています。

地元には、「何もない町だ」と言って嘆く方々もあります。

しかし、私から見ると美しい風景や、古くからの伝統、語り継がれる昔話など、珍しいものが沢山あります。また、古いものだけではなく、時代を先取りしたセンス、高い文化活動など多彩です。

私も公私ともにお手伝いしている、川本の地域資源を活用した「田舎ツーリズム」の活動についてご紹介します。



健康食品 エゴマ体験 ... エゴマの郷「たけした」

エゴマとは、青シソにそっくりのシソ科の植物で、江戸時代には、行燈の油や食用として古くから栽培されていました。現代では、東北地方の郷土食に残る程度となっていました。油には、リノレン酸（食べるとDHA、EPAになる）が60%含まれることから「畑の青魚」と言われ健康食品として注目度が急上昇中です。

川本町では、近年、エゴマの栽培が盛んで県内一の産地になっています。

町内の三原地区（川本から温泉津に向かう途中の高原）で栽培を振興されている竹下さんは、エゴマの良さを広めたい、エゴマ料理で健康になってもらいたい、地元の良さを知ってもらいたいとの気持ちからエゴマの農作業や料理の体験を田舎ツーリズムのメニューとして提供されています。

エゴマは、油として使えるだけでなく、ゴマと同じような使い方が出来ます。

ドレッシング、和え物、卵焼きなどに入れるほか、エゴマ豆腐、雑穀とエゴマなどを食べる事ができます。

竹下さんは、奥さんと共に退職後は農業に専念されていますが、持ち前の研究熱心さとソフトな人当たりで、訪れる人々に夢と癒しを与えてくれます。

これらの活動には、Uターンで地元に戻った方々が、農作業や特産品の開発などに活躍され、地域の担い手として期待されています。



羊の魅力！草刈りからマフラー ... 手紬工房 ダ・カーポ

川本では、時代を先取りした活動に驚かされますが、手紬工房ダ・カーポでは、平成7年頃から、羊を果樹園に放牧して草刈りの役目をさせながら、その毛を利用してマフラーやセーターなどの羊毛製品を作っています。グループは、町内外から20代から80代の女性により構成されています。作品は、刈った毛を洗って、糸紬で糸にし更に染色しされて初めて毛糸として利用でき、それから編んだり、織ったり、手間のかかった作品に仕上げられます。

作品は、ショール、ベスト、財布、バックなど女性から男性まで使っていただけるほどにバリエーションも豊富です。特に、転勤でこられた若い人はフェルトなどの小物を意欲的に作られて、デザインや配色などに刺激を受けます。

作品は個人の自宅で作られるほか、川本の道の駅で、制作販売されています。

私も帽子、靴下を購入し使ってみました。軽くて通気性が抜群なのに暖かく手放せません。道の駅では、素敵な作品を購入できるだけでなく、メンバーの皆さんの人生経験をお聞きしながら手紬体験もできます。

地元で飼育されている羊から刈った毛で暖まれる資源の循環は、耕作放棄地の解消、特産品の開発、高齢者の生き甲斐対策、地球温暖化まで幅広い地域課題を解決してくれます。

羊の毛刈りは大変な作業なので、ボランティアによる毛刈りのお手伝いを開催したところ、26人の方々が遠くは広島からも駆けつけてくださいました。



地域の資源の素晴らしさは、地元の方々は気づき難いものですが、余所から来た人、一度地域を離れた人が、地域の人々に関わる契機があれば思いがけない活動に発展するのだと感心させられます。

もりふれ倶楽部の理事でもある福代美保さんは、島根県から川本町役場に派遣されて2年目となります。今回は、貴重なレポートを投稿してくださいました。

プレーパークてんとう虫の森2008を開催して

斐川子ども応援団(てんとう虫)
代表 原 成 実

去る7月27日10時から荒神谷博物館北駐車場及びその周辺に於いて、てんとう虫の森オープンイベントを開催した。この森は、斐川子ども応援団(現在会員約200名)が1年かけて整備し、禁止事項をなるべくなくし子どもの発想で、子どもが自由に遊べる場所(プレーパーク)として準備してきた。

当日は、朝から天気が悪く、おまけに雷までなる最悪な状態、なんとか雨があがってくれ~とスタッフ全員が祈りながら準備を進めた。

スタッフの祈りが通じたのか、神庭という地のせいなのか、9時50分に雨が上がり10時からスタート、まず実行委員を代表して私がいさつ、続いて来賓の方のあいさつを受けた。その後、宝探しを行い一斉に子どもたちが山の中に入っていく、宝といっても共催企業などからの提供いただいた品物だが、子どもたちはもちろんそんなことは知らない。

ゲームなどがあるんじゃないかと思ひ必死に山の中に入っていく。日頃からその瞬発力を発揮出来ないものなのか?とても滑稽であり、不思議に思った。

続いて、姐御太鼓。出雲市平田町で活躍している団体で、子ども太鼓もあると聞いている。凄まじい太鼓の鼓動、山と音との描写がマッチしたすばらしいものだった。

つぎは、バンドライブとよさこい、来場者の心に残る歌声と踊りで盛り上げてくれた。

子どもたちは高齢者の方と、竹滑り台・展望ステージ・水鉄砲・ストラックアウト・ダンボール遊びなどで楽しみ、世代間交流ができた。

色々なお店も出店し、たこ焼き・地域特産品・わたがし・フランクフルト・かき氷・木工教室など盛り沢山。中でも木工教室では、親も子も木を使ったオブジェ作りに一生懸命。親子のふれあえる時間をつくることができた。

このイベントを開催して感じたことは、もっと外遊びの重要性に気づいてもらいたい事と今、地域で何が問題なのか?皆は何を求めているのか?本当に豊かな社会なのか?

心を育てるために何ができるのか?いろいろ考えさせられた。

私たちは、これから支えあう社会づくりのため、真の豊かさを求めて活動していきたいと考えています。

人間ってむずかしい動物ですよね~。



もりふれ倶楽部の会員でもある原さんは、子供たちの未来のために、地域の方々をまとめ、第1歩を踏み出されました。しかし、まだ、周囲を未開拓の荒れ山が覆っています。今後、地ごしらえとどんぐりのなる木の植樹をして行く予定だそうです。もりふれ倶楽部では、11月3日(月・祝)に、森林ボランティア活動の一環として、プレーパーク周辺の地ごしらえをお手伝いする予定です。多くの方のご参加を期待します。

平成20年度 もりふれ倶楽部の歩み

6月7日 里山ものづくり体験

「木切れ自然工作」

学習展示館来館者の希望者に対して木切れで動物づくり等を体験してもらいました。いろいろな大きさの木の輪切りで、個性豊かな動物や昆虫が誕生し参加者はよかったです。

指導 岡田邦博 ボランティア 竹下健二、野田あや子、他島大生2名

6月8日 第3回里山自然塾

「ヒノキの皮で、染め物と和紙づくりをしよう」

間伐材丸ごと利用シリーズの1回目で、約20名が参加しヒノキの皮で和紙をつくり、秘伝の方法で模様づけしたハンカチの染め物もつくりました。また、ヒノキ材の性質についても学びました。

講師 小笠原哲朗、影山和美 ボランティア 神門繁雄、中村正志

6月8日 県民の森ふれあい講座

「間伐と除伐」

なぜ、間伐や除伐が必要かを学び、全員が、チェーンソーを使った間伐を体験しました。午後は、チルホールを使った伐木や際材の実演も見学しました。

講師 遠藤正資、野田真幹



6月15日 里山自然塾サポーターズクラブスキルアップ研修

「葉脈を活かした葉っぱの型染めの手法を学ぶ」

約15名が生葉で染める型染めを学びました。公園内を散策し葉っぱを探し、葉脈を活かした葉っぱの美しい型染の数々が生まれました。

講師 影山和美

6月22日 自然観察会

小雨の中での観察会でしたが、ササユリの花、クリの花等が見られました。参加者には、樹木医の方もおられ、園内の植物の多様さに感動されておられました。

講師 中村正志 ボランティア 松本尚子、他島大生2名



6月22日 県民の森活動協力員養成講習

県民の森活動協力員の方を対象に、「コケ玉作り」「ヒノキの皮の染めものと和紙づくり」の研修を実施しました。よくばりなメニューをこなした充実の1日でした。

講師 伊原千里、影山和美、野田真幹

6月29日 森林未来経営塾林業技術編1 奥出雲町上阿井

大雨の中、集会場と現地で、刈払い機のメンテナンスから下刈り実習まで、講習と実践を行いました。

講師 遠藤正志、野田真幹、スタッフ 榎原道夫、福岡茂明

7月2日 松江市鹿島町佐太公民館事業

松江市鹿島町の佐太公民館より約20名が来館され、館内の説明を受けた後、学習室で、木切れ自然工作を楽しみました。

指導 野田真幹、宮崎徳子

7月6日 自然観察会

暑い中、親子連れを中心に歩きました。元気な植物たちに感銘を受けました。

講師 中村正志 ボランティア 野田あや子



7月12日 里山ものづくり体験

学習展示館来館者の希望者に対して、「すずしいものをつくろう」をテーマに、バランス風鈴掛け等、竹細工体験をしていただきました。バランスを取るのに大変苦労していました。

講師 岡田邦博 ボランティア 野田あや子 他島大生2名

7月13日 森林ボランティア 飯南町上来島

午前中は、セラピーの森の間伐を体験し、地元素材の美味しい昼食を食べ、午後は、丸太テーブルづくりと森のセラピー体験をしました。

スタッフ 坂本英希、岡田邦博、玉野英敬、榎原道夫
福岡茂明、野田真幹



7月16日 まつえ環境市民会議

まつえ環境市民会議から約20名が学習展示館に来館され、北部ヒノキ林を見学し、里山の間伐問題について考えながらセラピー体験をし、ヒノキの皮の紙漉きも体験されました。

指導 野田真幹、宮崎徳子

7月27日 第4回里山自然塾

「間伐丸太で動物ややじろべえをつくろう」

間伐の大切さについて現場の話しから学び、皮を剥いだヒノキの丸太を使って、イノシシやイヌなどの動物や、やじろべえのインテリアを作りました。約20名が参加しました。

講師 岡田邦博 遠藤正資

ボランティア 竹田正彦、寺本哲夫、竹下健二



7月27日 プレーパークてんとう虫の森オープンイベント

斐川町荒神谷周辺にて「斐川こども応援団てんとう虫」主催で「プレーパークてんとう虫の森」オープンイベントとして、多くの子供たちを対象に、「木切れで自然工作体験」を実施しました。

指導 小林玲子、宮崎徳子

7月27日 県民の森フェスティバル

県民の森フェスティバル来場者に「コケ玉づくり」「ヒノキの皮の染め物」「ヒノキの皮の紙漉き」「クロモジの爪楊枝づくり」を実施しました。大盛況でした。

指導 榎原道夫、三重野三義、藤原修治、伊原千里、
福岡茂明、横田典子、野田あや子、野田真幹



7月31日 ちびっこまつり

斐川町アクティー斐川を会場に、新日本婦人の会・親子リズムサークル主催の「ちびっこまつり」が開催され、もりふれ倶楽部も「木切れの自然工作体験」のコーナーを出展しました。子どもはもちろんのこと保護者の方も童心に帰って、作品作りに没頭していました。

指導 宮崎徳子

8月1日 ちびっこまつり

いきいきプラザ島根体育室を会場に、親子リズムサークル主催の「ちびっこまつり」が開催され、もりふれ倶楽部も「木切れの自然工作体験」のコーナーを出展しました。猛暑にもかかわらず、親子連れ120名の参加がありました。

指導 宮崎徳子



8月1日 島根県立盲学校対応

学習展示館を来館された島根県立盲学校の生徒と先生に、北部ヒノキ林での「自然体験活動」と学習展示館での「木の首飾りづくり」の指導を行ないました。生徒たちは、切りたてのクロモジの香りをとても喜んでいました。

指導 野田真幹

8月3日 県民の森オープン講座

県民の森来園者に「クロモジのつまようじ作り体験」「竹細工」「安全帯を使った木登り体験」を実施しました。

指導 三重野三義、野田真幹

8月3日 夏休みわくわくキャンプ

NPO法人宍道湖スポーツクラブ主催で、夏休みわくわくキャンプが宍道町古墳の森で行われ、その中で小学生30名に対して、竹細工の指導をしました。

指導 岡田邦博

8月4日 斐川町教職員夏期研修

斐川町教育委員会からの要請で、斐川町内の小学校の先生16名を対象に「ヒノキの皮の和紙づくり体験」「ヒノキの皮の染めもの体験」を通して、間伐の大切さを学んでいただく研修を学習展示館で実施しました。

指導 野田真幹、宮崎徳子

8月7日 松江市白潟公民館事業

松江市白潟公民館からの要請で、白潟、朝日地区の小学生34人を対象に、木切れや木の輪切りを使って動物や昆虫作りに挑戦してもらいました。個性豊かな作品がたくさんできました。

指導 野田真幹、宮崎徳子

8月8日 吉田グリーンシャワーの森 カントリースクール

吉田グリーンシャワーの森主催のカントリースクールにおいて、約20名の参加者を対象に、野外での自然観察体験とスギの皮で和紙づくりの指導をおこないました。

指導 野田真幹

8月9日 里山ものづくり体験

学習展示館来館者を対象に「枝のミニフォトスタンドづくり」に挑戦してもらいました。夏休みの宿題にもなると子供たちは大喜びでした。

講師 岡田邦博 ボランティア 島大生1名

8月10日 自然観察会

日中の暑さを避け早朝の清々しい空気のもと、6時半から8時までで自然観察会を行いました。今回は夏の花をテーマにクサギの花・クズの花などの観察を行いました。

講師 中村正志 ボランティア 松本尚子

8月10日 県民の森オープン講座

県民の森来園者に対して、「竹細工」「森林セラピー体験」を実施しました。

指導 三重野三義、岡田邦博

8月17日 県民の森オープン講座

県民の森来園者に対して「竹細工」「クロモジの爪楊枝作り」「木工クラフト」を体験してもらいました。

指導 三重野三義、正木勉

8月17日 第5回里山自然塾

「夏休みに、野鳥を学び、愛される巣箱をつくろう」

夏休みに親子で、野鳥と巣箱について学び、シジュウカラ用の巣箱作りに挑戦しました。お父さん、お母さんに手伝ってもらったの巣箱作りは夏休みのいい思い出になったことと思います。約20名が参加。

講師 竹田正彦 ボランティア 岡田邦博



森の音楽会10月11日開催

場所：ふるさと森林公園

主催：島根県緑化推進委員会、NPO法人もりふれ倶楽部

プログラム：15時～16時 野鳥の森 オーボエとフルートの演奏

17時～19時30分 学習展示館 クラシックとジャズの名曲演奏

出演：森を守るために集結した～中海交響楽団の仲間達と山陰のジャズミュージシャン

参加費：無料ですが、緑化募金にご協力ください！

もりふれ倶楽部、今後の予定

- 9月7日(日) 第6回里山自然塾「竹を学び使ってみよう」10時~15時・ふるさと森林公園
竹で楽しい自在鉤が作れます。無料。定員20名、参加者募集中。
- 9月13日(土) 里山ものづくり体験「食卓を彩る竹細工づくり」10時~15時・ふるさと森林公園
ボランティア募集中・ボランティアは9時~15時30分
- 9月14日(日) 自然観察会9時30分~11時30分・ふるさと森林公園・参加無料
ボランティア募集中・ボランティアは9時~12時
- 9月20日(土) 森林未来経営熟林業技術編10時~17時 希望者は懇親会宿泊有り・県民の森
「間伐の基礎」「ワイヤーの編み方」県有林から本格指導が受けられる!研修無料!
- 9月21日(日) 森林ボランティアセラピーの森10時~15時・セラピーの森・参加費500円
丸太プランコ作り、森のセラピー体験あり、ハンモックも来る、地元の昼食付き
スタッフ募集中・スタッフは9時30分現地集合~15時30分解散
- 9月28日(日) 奥出雲森林ボランティア・下刈り交流会10時~15時・上阿井・参加費500円
下刈り、里山昼食会、ネイチャーゲーム、自然観察会、名水を楽しむ
スタッフ募集中・スタッフは9時30分現地集合~15時30分解散
- 10月4日(土) 里山ものづくり体験「内容未定」10時~15時・ふるさと森林公園
ボランティア募集中・ボランティアは9時~15時30分
- 10月5日(日) 自然観察会9時30分~11時30分・ふるさと森林公園・参加無料
ボランティア募集中・ボランティアは9時~12時
- 10月5日(日) 公園ボランティア活動・遊歩道整備 13時~16時・ふるさと森林公園
参加者募集中・森林公園にあなたの愛の足跡を残そう!
- 10月11日(土) 森の音楽会15時~19時30分 素敵な夜を過ごしましょう!
- 10月12日(日) 第7回里山自然塾「秋の里山でキノコを探そう」10時~15時ふるさと森林公園
専門家の指導で楽しめます。無料。定員20名、参加者募集中。
- 10月17日(金)~18日(土) 里山生活塾。今回は森の癒しにこだわります。参加12,000円
食事・宿泊・懇親会を含む。会員の参加も大歓迎です。
- 10月25日(土)~26日(日) 中・四国森林未来経営塾。参加して森林の未来を徹底的に考えてみ
ましょう!講師 栗栖誠(先進的森林経営者)、立石幸(飯石森林組合組合長)、
井ノ上二郎(島根県統括林業普及員)他・県民の森・講演会のみ参加無料・参加費
宿泊、懇親会、食事代で4,000円!です。
- 10月26日(日) 森林ボランティアセラピーの森10時~15時・セラピーの森・参加費500円
丸太シーソー作り、枝打ち体験、森のセラピー体験、地元の昼食付き
スタッフ募集中・スタッフは9時30分現地集合~15時30分解散

ボランティア活動の中には、会員に限り、交通費の補助、昼食を支給させていただくものもありま
す。詳細に関しては、もりふれ倶楽部 野田・宮崎まで、メールまたは電話でお問い合わせくださ
い。



もりふれ倶楽部会報

NO. 16

〒699-0406 松江市宍道町佐々布3352ふるさと森林公園学習展示館内

もりふれ倶楽部

TEL(0852)66-3586

FAX(0852)66-3586

[メール morifure@coffee.ocn.ne.jp](mailto:morifure@coffee.ocn.ne.jp)

ホームページ <http://www.morifure.jp/>